

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 1月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	あいグループホーム		
所在地	〒732-0043 広島市東区東山町15番2号 (電話) 082-264-1006		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;PrefCd=34&amp;VirisionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;PrefCd=34&amp;VirisionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な小高い場所にあり、グループホームの4・5階から新幹線が良く見え、喜ばれています。また、市内を一望できる夜景がとてもきれいです。グループホームの目の前には四季を感じる事の出来る公園があり、公園で楽しく遊ぶ子供達の声や姿を見る事が出来ます。当グループホームは病院と併設されており、週3回の医師と看護師の往診があり、日頃の体調管理をしっかりと行う事が出来ます。また、容体が悪くなった時には24時間体制で医師と看護師とが連携し、速やかに対応し、安心して生活を送って頂く事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当日は大寒を迎えた寒い日の訪問となりましたが、病院ビルの南側に位置しているグループホームあいの施設に入室しましたら、温かな採光が部屋いっぱい差し込む快いリビングが目の前に開けました。温かい日差しの中で数人の利用者の方が職員と共にゆったりと談笑されていました。建物の4階5階に位置しているホームの丸みのある出窓からは、近隣市街地が一望でき、近くの商業施設の活気や新幹線の走る姿も真近に眺められています。病院に併設された施設は、24時間体調管理の安心安全が保たれ、職員は担当制で利用者とコミュニケーションを密にし、全員協調の両面で穏やかに利用者へ寄り添った支援が続けられています。高齢者介護の経験豊かで熱意を持たれている管理者を中心に、利用者の皆さんがより心地よい生活が出来る事を目指して職員一同努められています。

あいグループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を頭に置き、前向きに一日一日を一生懸命、職員同士がくよくよせず、明るく入居者様と一緒に一日を過ごすことのできるよう、スキルアップをしている。	「明日のことを思いわずらう事よりも 今日一日を輝いて」との理念をスタッフルームに掲示して、申し送り時に声を大きくして唱和している。大きな声を出すことで職員のストレス発散にも役立てている。職員のスキルアップとして、理念を基に年間の努力目標の標語を職員主体で作成されることも検討されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月1回、子どもたちの遊び場である公園清掃にグループホームあいとして参加し、地域の為に少しでも役立てるよう、病院と一緒に自主参加をさせてもらっている。	月1回の公園の清掃に職員が参加し、地域の方との交流に努めている。秋祭りのお神輿が病院の玄関に立ち寄り病院やホームの利用者は職員と共に出迎えている。	ホーム職員の認知症介護の豊富な経験や資格を活かされて、地域包括センター等を通して地域へのアドバイザーの役割を発信されることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々からのグループホーム入居についての問い合わせが少しずつ増えている。同居している家族の中に認知症の方がおられる事の悩みを解決できる様に、電話で相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は必ず奇数月に入居者様のご家族・地域包括支援センター等が参加され、行事の報告・入居者様の様子・入居状況について報告をし、サービス向上に活かし、理解をいただいている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、家族代表、地域包括支援センター、ホーム代表、ケアマネージャー等が出席されている。議題は主に利用者の現状、行事報告の説明等を行い意見交換が行われ、事後の支援向上に役立っている。	運営推進会議に町内会役員、地域民生委員や老人会役員等の参加を求められ、幅広いご意見を募られることが期待されます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市とは事業所として出来る限り役所に伺い、お会いしてコミュニケーションを取らせていただいております、協力関係を築ける様にしている。	契約関係や生活保護者の入居の問題や書類作成等困難な問題はその都度区役所介護関係の係に質問して、親切に教わり協力頂いている。地域包括センターの職員との連携をより深めたい意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束0に取り組んでおり、職員一同で一生懸命ケアに取り組んでいる。現時点で拘束0を守っている。	現時点での拘束者はありません。「身体拘束をしないケア」の外部研修に参加して、報告伝達を行ったり、1年に1回は身体拘束についての事例を参考資料にした施設内研修を行い、身体拘束0を再認識する取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ間で常に情報交換を行い、入浴時のボディチェック表の記入などをしっかり行い、情報を得るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者・スタッフに日頃から何でも言える様に、コミュニケーションをしっかりと取れる様心掛けている。できる事はできる、無理な要求は無理と言える関係である様になっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、理解・納得して頂いた上で、同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者に寄せられた提案をまとめたものを元に、管理者と意見交換し、運営に役立てている。	家族の訪問時には必ず声掛けをして、要望を伺い、ケース記録に記入しミーティングで検討して、管理上の問題は管理者と相談検討し、サービスの向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者・管理者は、職員の要望・意見に耳を傾け、しっかりとアドバイスをし、メンタル部分を気を付けながら話を解決し、互いに受けとめる関係にしている。	管理者は職員間のコミュニケーションに気配りをし働きやすい環境づくりに努めている。利用者への対応方法で病院職員との温度差が生じる場合、円満に解決する話し合いがされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	リフレッシュ休暇を取りやすい様、代表者は配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には、個人の力量に応じて時間をかけて研修を行っている。外部研修に参加し、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流の中で情報交換し、スキルアップの為に研修書類等の参考にし、質の向上に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	いつもスキンシップを心掛けながら不安の無い様に声掛け、傾聴をする様に職員は心掛けている。信頼関係をしっかりとつくり、安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	心配な事、不安な事、要望などがあれば、何でも相談をして頂けるような信頼関係作りをいつも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者・ケアマネージャー・職員間で話し合いをし、ケアプランにのっとった支援をし、入居者が落ち着かれるまで模索しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物干しや洗濯物たため、おやつの盛付け等、職員が声掛けをしながら一緒に行い、良い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	遠くの家族の方には月1回の現状報告をし、遠方においてもご安心いただけるように情報を送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来られた時には居室にてゆっくりコーヒーを飲みながら談話をされる様にし、関係が円滑になるように支援する様努めている。	仕事をされておられた時代の同僚が訪ねてこられ、居室に案内し、コーヒー等を差し入れ、ゆっくりしてもらっている。親戚一同10人以上が来訪された時は、リビングのテーブル全席をお貸しし、もてなしをして喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席を決めさせてもらっていますが、皆様の関わりがうまくいく様に職員が間に立ち、円滑にトラブルの無い様心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所すると終わりではなく、いつでも家族からの相談ができる様に、また、支援ができる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのような人生を歩まれたのか、情報とコミュニケーションを取りながら傾聴し、出来るだけ本人の望む生活が出来る様、職員全員で検討する様、努めている。	職員は担当制で利用者とコミュニケーションをとり、しっかり観察し、意向や要望の把握に努め、ケース記録や申し送り簿で共有して日常の生活の支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人とのコミュニケーションを取りながら、今までの生活や環境がどの様だったのか情報を得る様にして、ユニット会議等で検討し、ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	残存機能がどこまで維持出来ているのか検討し、出来るだけ機能の低下をくい止める様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人家族が望まれている生活が出来る様、ケアマネジャーと現場の職員が介護計画書を作成し、ケアプランを元に、より良いケアができる様心掛けている。	職員は担当制で利用者とコミュニケーションを密にし、主になって支援し、本人家族の要望や情報を重点的に把握してケース記録に残し、ケアマネジャーと共に介護計画書を作成している。職員が充分納得した介護計画書に基づいて、より良い介護支援が出来る事を目標にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録を細かく記入し、申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様のニーズに合わせた支援と、状況に応じた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、支援に活かしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週3回ワカサリハビリ病院のDr.とNs.の往診が実施されている。ご家族の希望医療機関への受診はご家族での対応をお願いしている。医療機関への情報提供をしている。	母体病院の医師の往診が週3回実施されている。又緊急を要する時点では、病棟看護師が即時応援出来る体制をとっている。歯科は母体病院の提携歯科医が毎週木曜日に病院に来診されるので、歯科を必要とされる利用者をお連れしている。その他の専門医には家族で対応してもらい情報を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活中で変わった事があればすぐに併設している病棟のNsに報告し、また、相談をし、適切な支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している病院に入院されることがあっても、職員が顔を见に行く事が出来るので、入居者様も安心されている。病院との情報交換もしっかりと行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期となりつつある場合は、家族・本人の思いをその都度確認している。職員一同、思いに沿った支援ができる様、努めている。	本人や家族の希望を最優先にして、医師と相談しながら意向をくみ取っている。過去ホームでの看取りを希望された方は医師の指示を受けながら看取りを行い家族より謝意があった。大半の利用者は重度の状態になられると、母体病院の病棟に受け入れられ、十分な治療をされ看取りをされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	常に施設内でシミュレーションを行いながら急変時の対応をしており、マニュアルを配布し、しっかりと頭に入れておくようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署より職員の方に来ていただき、厳しい指導と親切な説明を職員が受け、勉強をし、昼夜問わず非難できる方法を職員が身に付ける様にしている。	災害対策は母体病院と協定が作られ、常時病院職員との連携を取りながら訓練や話し合いに参加している。今年度計画の夜間想定避難訓練が実行された。訓練時の状況を写真で記録されている。	避難訓練時の写真記録に加え、訓練時の反省点や問題点の検討記録を残されて、今後の訓練の参考にされることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に言動に気を付けながら声掛けをするよう、気配りをして対応を行っている。	個人情報の記録簿はスタッフルームのロッカーで施錠して保管している。個人記録はなるべくスタッフルームで記入し、職員間で共有している。日常の声かけは尊厳を大切に言葉使いに気を付け、職員間で気軽に注意し合うような雰囲気づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が決定できるような、日頃の生活の中で言いやすい関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様を一番に考え、業務優選にならない様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着たい洋服を職員と決めて着ていただき、身だしなみも整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事やおやつティータイムも、他の入居者様と楽しく談話しながら食事摂取をされている。食事はその人に合わせた刻み食・粗刻み食・汁のトロミ食を提供している。	食事は調理済レトルトとして食材業者より配達され、利用者の好みや体調に合わせて刻み食、粗刻み、汁のトロミを加えたりして配膳提供している。レクのおやつ作りでホットケーキ、焼きそば作り等して喜ばれている。2～3回に分けて職員同伴で近くのフードコートに食事に行く機会を設けて喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部委託による高齢者向けの栄養バランスのとれた食事を提供している。一人ひとりに合わせてきざみ・極きざみなど対応している。食事量の少ない方には栄養飲料やゼリーなど、カロリー摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人の生活習慣に合わせて口腔ケアの支援を行っている。毎食後に口腔ケアが行えるようにしている。入れ歯の方については就寝前に義歯洗浄剤を使用している。必要な時には歯科受診によりブラッシング・歯垢除去が受けられるように口の中の清潔の保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	車いす使用の方でも個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合った間隔でトイレの声掛け、誘導を行っている。尿意・便意を失わないよう、気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。	日中は排泄管理表を基に各々の方の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、気持ち良い排泄をして頂くよう努めている。夜は睡眠を優先して、リハビリやおむつを利用してもらっている。病院よりおむつで退院されリハビリ、トイレ排泄に移行された方もある。排便コントロールは体調に合わせるよう特に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の回数、量、状態の確認を行っている。運動や好みの飲み物で水分摂取ができるように支援している。便秘が続く時には緩下剤の量や坐薬の使用をDr.に相談しながら決め、排便があるよう職員一同排便チェックをし、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回の入浴ができるように支援している。本人の希望の曜日や時間の変更には無理のない範囲で対応している。また、入浴があまり好きではなく、入浴をしたがらない人にも週2回の入浴をしていただける様、タイミングを逃さない様、声掛けを行っている。	入浴は拒否される方が数人ある。週2回は必ず全員入って頂くように工夫して誘導を心がけ、希望を聞きながら本人の要望は時間の許す限り実行している。その他、排便排尿漏れ時などにはその都度シャワー浴や入浴で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室で休息できるようにしている。夜間も2時間毎に巡回し、必要な方には小ドアをあけて安否確認をし、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬一覧表を作り、薬の用法、用量がいつでも確認できるようにしている。新しく処方された薬や変更になった薬は申し送り帳に記入し、服薬管理をきちんとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	女性の入居者様には洗濯物干しや洗濯物たみ、おやつ準備、お茶とりなど役割を持って過ごしていただけるようにしている。個人の生活歴や楽しみの把握に努め、支援していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には病院前の公園内の散歩に行き、犬の散歩や、小さい子どもさんを見て目を細める事も多くあり、心なごむひと時に喜ばれていた。	日常的にはお天気を考慮しながら、病院前の公園で散歩を楽しまれている。又系列グループホームの近隣にある縮景園への外出を度々行い、グループホームに立ち寄り食事会をする等して、ホーム間の交流を深め利用者間で喜ばれている。今後も近隣の小学校の運動会を観に行く等の、外出支援を増す意向を持たれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方にはご自分で管理し、使えるように支援している。管理が難しい方が多く、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓が広く、毎日の天気の確認がしやすく、新幹線や大型ショッピングセンターなどが見え、眺めも良い。閑静な住宅街にあるので不快音も少ない。居室、リビング、台所、浴室、トイレと、全てに清潔を努める様、心掛けています。	ホームの施設は、母体病院ビルの4階5階の南側に位置し、円形の広い窓からは、近隣の市街地が一望される。新幹線の通過やショッピングセンター、野球場等からの活気も窓越しに体感される。広い窓からの採光が終日あり、近隣公園の木々は四季折々の季節感をもたせ、日光浴をしつつ職員とお天気の話等されているひとこまが覗えた。リビングに続く広い廊下は筋力強化体操やウォーキングの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スタッフルームの前にソファを置き、入居者様同士の談話に役立つ様にし、職員とも楽しく笑いながら話しが出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人やご家族と相談しながら居室環境を整えている。居室には家族の写真やご自身の作品を飾っていたり、仏壇を置いている方もいらっしゃり、本人が居心地の良い居室作りに努めている。	各室は東向きで採光が部屋全体に行きわたっている。自宅で使用されていた調度品や小物が持ち込まれ、ご本人の意向に沿いながら、家族や担当職員と相談しつつ整えられている。家族写真や自作の切り紙等も飾って楽しんでいる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレが分かるように貼紙をしている。ご自分の部屋が分からない方には職員手作りの表札を掛けて分かるようにしている。		



V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

あいグループホーム

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあい

作成日 平成28年1月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の計画が少なく、あまり外出が予定通り出来なかった。	外出が出来るように体制を整え、外出の計画を立てる。	入居者様の体調を管理し、外出が計画通り行えるよう取り組みをする。	1 2 か月
2	48	手作りで四季を感じる作品が出来ていない。	入居者様と職員で協力し、四季を感じられる作品を作る。	入居者様と時間をかけて全員参加で四季を感じる作品を作る。	1 2 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。